

Brief Letter ブリーフレター 50 JUNE 2012

創刊50号 記念特集

創刊50号の 発行によせて

秋本病院理事長・院長 秋本 亮一

7年分の編集後記

ブリーフレター前編集長 内田 浩稔

「ブリーフレター、拝受」 ～恩師からの絵ハガキ～

第10回秋本メディカルセミナー 報告
「やさしいガンの話」

新任スタッフ紹介

スタッフの横顔

スタッフだより
「マザーテレサ施設での
ボランティア体験記」

緩和ケアセンター 看護師 岩本 美紗



薊(あざみ) 絵:宮本フ左



いつも温かく迎えてくれるご主人

SHOP 散策

鮭処 いたう

リーズナブルだけど贅沢な味わい 温かいご主人と女将さんが迎えてくれるお寿司屋さん

秋本病院から大正通りを渡って歩いて3分。薬院2丁目の「鮭処 いたう」をご紹介します。国体道路沿いの今泉2丁目にある鮭割烹の老舗“なか庄”で修行のあと、13年前に「いたう」を開業なさったご主人は、長崎出身で2人のお子さんのお父さん。女将さんと二人三脚で、いつもニコニコ、美味しいお寿司を握ってくれます。

お任せコースは勿論美味しいのですが、お昼の定食はお薦めです。「にぎり定食」はにぎり8貫と鮭の細巻に茶碗蒸し、赤だし付で1500円。にぎりは、季節によって変わりますが、白身、トロ、イカ、海老、玉子、青物、貝類など。人気のちらし定食は1000円。手作りで桃色のイカデンプが食欲をそそり、「寿司はにぎりでしょ!」の取材者もべろりと頂きました。(定食は日祭はありませんのでご注意ください)

ちょうど取材にお邪魔したとき、ご主人が“なか庄”時代によく出前をなさっていたお客様と話が弾んでいました。女将さんと二人三脚の温かく清潔感のあるお店です。病院の帰りや、お友達やご家族と一緒にぜひ一度訪れてみてください。



「ちらし定食」は、特に女性に人気



「にぎり定食」は、にぎり8貫に茶碗蒸しと赤だしがつく



4人用の座敷は、個室にもなります

メニュー

- にぎり.....1,500円
- 上にぎり.....2,000円
- 特上にぎり.....2,500円
- にぎりお任せコース.....6,000円～

席数

カウンター7席、座敷1(4名用)

店舗 情報



鮭処 いたう

住 所：福岡市中央区薬院2丁目 18-13
電 話：092-716-2444 (出前可)
営業時間：11:30～14:00, 17:00～22:00
定 休 日：第1・3日曜日

編 集 後 記

緑が美しい季節になってまいりました。表紙の水彩画はあざみです。華やかではありませんが、毅然と野路に咲くあざみが私は好きです。本誌49号から女流水彩画家 宮本フ左氏のご厚意で作品を使用させていただいています。

さて、当院情報誌「Brief Letter ブリーフレター」今回は50号記念号です。創刊は1997年(平成9年)6月。15年後の2012年(平成24年)6月、50号を発刊することになりました。前号から編集に関わっておりますが、日常業務の傍ら15年間継続してきた歴代の編集長に改めて敬意を表します。そして、初心の『この小冊子が少しでも皆さまのお役にお立ち、皆さまと秋本病院の心をつなぐ架け橋になれば』という願いで、これからも努力してまいります。今後とも、ブリーフレターをよろしく願い申し上げます。(畑間啓子)

秋本病院 ブリーフレター No.50 2012年6月発行 発行者/秋本亮一 発行所/医療法人 AGIH 秋本病院 デザイン/有限会社 広告農場 編集/矢野 美恵子
Copyright 2009-2012 Akimoto Hospital All rights reserved.

医療法人 AGIH 秋本病院 福岡市中央区警固 1-8-3 TEL : 092-771-6361 <http://www.akimoto-hospital.jp/>

●診療科目：外科(消化器外科)・内科・胃腸科・肛門科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・放射線科

●外来診療受付：平日 8:30～12:30/14:00～17:00 土曜 8:30～12:00 ●休診日：日・祝

特集 ブリーフレター 創刊50号記念

当院開業50周年を記念し1997年に発行して以来、本誌は今号で15周年、創刊50号を迎えることとなりました。今回はそれを祝して、ブリーフレターに縁の深い2名からのメッセージや、院長が恩師から頂いた本誌への感想が書かれた絵ハガキをご紹介します。

「Brief Letter」の創刊50号をお届けすることになりました。振り返ってみると、創刊号は平成9年で、「開業50周年を記念して」情報誌の作成を開始しました。

以来15年間、年4回を目標に病院からの情報発信をしてきました。そのころ病院情報誌は全国でも

珍しく、取り上げられたテーマは、「医療制度」「新しい医療技術」「健康情報」などで、医療や病院を誰にでもわかりやすいように説明することを目的に編集をしてきました。

一貫して何度も取り上げたのは「禁煙」と「健康診断(癌予防)」「救急医療」でした。

創刊50号の発行に よせて



秋本 亮一
秋本病院 理事長・院長

病院の出来事は「医療機能評価の認定取得」「新病院への移転」「大相撲」などその都度、皆様にお伝えしてきました。「緩和ケア」はここ数年の大きなテーマです。新入職員紹介のように皆さまに親しまれる紙面づくりも心がけて来ました。

この15年間、医療を取り巻く環境(保健制度や高齢化問題)は大きく変化してきましたが、私たちの目指す「心ある医療」は変わることなく継続してきたと思います。

病院情報誌も、その心を皆様にお伝えする手段としてこれからも継続し、「心ある病院」が地域に根ざすように今後も努力を続けていきます。



7年分の編集後記



医療情報部長
医療ソーシャルワーカー
社会福祉士・精神保健福祉士
内田 浩稔

うちだ ひろとし

年月と言うものは、振り返るとあっという間だったとよく感じられるもので、もう7年も経ったのかというのが正直な気持ちです。私が当院に入職してからすぐに、このブリーフレターの企画・編集を任されるようになりました。

企画・編集と言ってももちろん私一人で全部やった訳ではなく、デザインや印刷などをお願いしている会社の担当者との二人三脚でした。しかし、ソーシャルワーカーとしての業務や他にもたくさん業務を抱えながらの作業でしたので、ブリーフレターの仕事の時期になると、途端に他の業務も回らなくなるほど忙しくなるという状態でした。

私が実際に企画・編集を担当したのは、Vol.29からVol.48までの20回分です。最初に関わったVol.29は病院が天神西通りから現在の警固に移転した直後に発行、職員全員のメッセージや移転時の様子を撮影した写

真を見開き全面に掲載した特別号でした。その他印象深かった事としては、ブリーフレター創刊時はモノクロ印刷でのスタートだったのが、二色刷りを経てVol.40からは遂に念願のフルカラー印刷になったことでした。

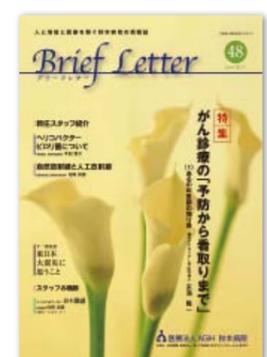
誌面への個人的な関わりは、Vol.32から「ソーシャルワーカーのしごと」という連載コラムをスタートさせてからです。Vol.39では「ソーシャルワーカー日々雑感」とタイトルを変更し、より幅広くテーマを選べるようになりました。企画・編集をしながら自分のコラムも執筆することは、私にとっては大変なことでした。次から次へと書きたい事が溢れてくるならいいのですが、ネタに悩む繰り返しでした。個人のブログなどとは違い、病院の広報誌という特殊性や後々まで残る印刷物というプレッシャーなどがそうさせたのだらうと思います。

インターネットがいろいろな情報源として生活の中に深く入り込んでいる現在、紙の印刷物はスピードや情報量、手間やコストがかかる点では劣るでしょう。しかし、電源や媒介する端末機器を必要としない手軽さや、人に手渡して気軽に回し読みなどできる利点があります。今後もブリーフレターが印刷物として継続されるかどうかはわかりませんが、たとえ提供する形が変わったとしても、「何をどう伝えたいのかを悩み考えることが、実はきつと一番大切なのだ」という気持ちは変えずにいたいと思います。

最後に、この7年間忙しい最中に原稿や撮影をお願いした方々、デザインやリライト、印刷を担当してくださった方々、そして読者の方々に感謝の意を表したいと思います。そして今後のブリーフレターを、どうぞご期待ください。



担当していた連載コラム「ソーシャルワーカー日々雑感」第一回目



最初に担当した29号と最後に担当した48号。表紙や内容も随分変わってきました



スタッフの横顔



食に関する情報は
スタッフ NO.1!

健診センター 鈴木 由美

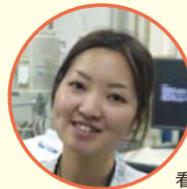
鈴木由美さんは、健診センター事務部門を一手に引き受けるスゴ腕レディです。そんな彼女の意外な一面をご紹介します。

かなりの「食通」でおいしいと評判のお店には積極的に足を運び、知らない路地裏でも探検家のように突き進みます。その愛らしい容姿とはちがい心は男らしいのかも……?

皆さんぜひ一度グルメ情報を聞いてみてください。きっといいアドバイスをくれますよ。
〈紹介者:ファン ファン〉



当院では、皆様に安心して医療サービスを受けていただけるよう、さまざまなスタッフが活躍しております。このコーナーでは、そのスタッフたちの素顔をご紹介します。



笑顔と元気でまわりを
明るくしてくれる!

看護師 吉瀬 葵

『太陽の子』と患者さまからも、お墨付きの元気っ子ナースの吉瀬さん。大きなぱっちりのお目々とオレンジ色のチークが、いつも素敵で綺麗なお姉さんです♥

そんな彼女も動物占いで、なんと!!『どっしりとした猿』。太陽といい、猿といい!!まさに元気そのもの!!

これからも、その愛らしいステキな笑顔で太陽のように輝いて(暑い!??)患者さまに元気と活力を贈ってください。そして、いつになるやら……。花嫁姿を秘かに期待してます♥

〈紹介者:協調性のナイ羊(双子の姉)〉



スタッフ だより

マザーテレサ施設でのボランティア体験記

緩和ケアセンター 看護師 岩本 美紗

一昨年11月、私はインドのマザーテレサ施設でボランティアをさせていただきました。マザーの施設はそれぞれ障がい者の家、子どもなどの家で、様々で、設立している場所も分かれています。私が行ったのはカリガート「死を待つ人の家」と呼ばれる瀕死の状態である方のいるところでした。入所されている方の多くは、シスター達が駅や町に出向き、そのような状態の方に声をかけ、連れてこられるそうです。

ボランティアは洗濯から始まり、食事の介助、排泄処理などが主です。もちろん洗濯機などありませんので、手洗いです。入所者の方が身につけるものといえば、とても洋服とは呼べない、布切れ一枚です。下着もなく、排泄物もまさに垂れ流し状態でした。普段日本の医療に携わっている私にはとても衝撃的な光景でした。もはやここに清潔不潔の区別などなく、今までの常識が全部崩れてしまったような感覚でした。入所者の方の1人に、目も鼻も耳も唇もない方がいました。顔のパーツで残っているのは歯のみ。その方にお会いしたときの感情は、もうなんと表現したらよいかわかりません。それでも食事がとれるのです。四肢を動かすことができるのです。人間の生命力とはこんなにも強いのかと感じました。目も耳もない



あるインド人に言われました。「世界にはお金持ちの人は多いけど、心持ちの人は少ないよね。人は、生まれてくる時、心ひとつ体ひとつで生まれてくるでしょう。だから死ぬ時も心ひとつ体ひとつで死んでゆくんだよ。お金はいらないんだ」と。心を洗われたようでした。私たち看護師にできること、ケアとは心に介入する事なのだ改めて感じました。どんなに医療が発達しても、人の心に寄り添うという根本的なことを忘れてはいけませんね。

総務部 部長
松本 幹生

はじめまして。昨年8月より総務を担当している松本です。山歩きとスキーとお酒が大好きな、少々年嵩がいった新人です。医療の業界は初めての分野ですが、これまでに培った知識(?)と経験を生かし、これまで以上に当院が地域に無くてはならない存在となる一助になるように努めたいと思っております。よろしくお願いたします。

放射線課 課長 / 診療放射線技師
栗原 一誠

今月1月から放射線課に勤務している、栗原と申します。放射線技師としては10数年の経験がありますが、まだまだ覚えることが多く周りの優しいスタッフに助けて頂きながら、日々仕事を行っています。放射線といえば、本来イメージが悪く捉えられるものですが、正しく理解し、使用すれば、患者さまに大変利益になるものだと思います。

放射線課 課長 / 診療放射線技師
栗原 一誠

今月1月から放射線課に勤務している、栗原と申します。放射線技師としては10数年の経験がありますが、まだまだ覚えることが多く周りの優しいスタッフに助けて頂きながら、日々仕事を行っています。放射線といえば、本来イメージが悪く捉えられるものですが、正しく理解し、使用すれば、患者さまに大変利益になるものだと思います。

当院ホームページがわかりやすくなりました

ブリーフレター50号発行に合わせて、ホームページもリニューアルしました。今回の変更で心がけたのは「わかりやすく、親しみやすく、利用しやすく」。一新したホームページをぜひご覧ください。

- ①文字の大きさが選択できる
 - ②主要項目については英語表記も
 - ③初来院の方にもわかりやすい地図と交通機関案内
 - ④県や市からの健診情報などもタイムリーに発信
 - ⑤スマートフォン専用サイトも開設
- <http://www.akimoto-hospital.jp/>
または、yahooやGoogleなどの検索サイトから 秋本病院 検索
➡携帯からもアクセス! スマートフォン専用ページもご用意しています



Check
スタッフの
ブログもぜひ
覗いてみて
ください!

Check
笑顔あふれる
写真が
いっぱい!

facebook「秋本病院」でも情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください!